



那波多目 功一 展

本館6階 美術画廊【日本画】

散華 — 花を描き、生命を謳う

このたび高島屋では今夏7月1日に惜しくも92歳でご急逝された那波多目功一氏の個展「散華 — 花を描き、生命を謳う」を開催。生前より計画されていた本展が最後の新作個展であり遺作展となる。氏は院展を主な舞台に発表を続け、2002年に日本藝術院会員に任命、2006年より日本美術院理事、2016年より10年間日本美術院代表理事の重責を担い、2024年、令和6年度文化功労者として顕彰。昭和—平成—令和と、花を見つめ、いのちを描いた日本画家・那波多目功一氏の画品溢れる新作の数々は実直で優しさに満ちた生前の氏を偲ばせる。



「草原の親子鶴」
P100号
紙本、彩色

11.4 WED~11.9 MON

万里一空Ⅱ

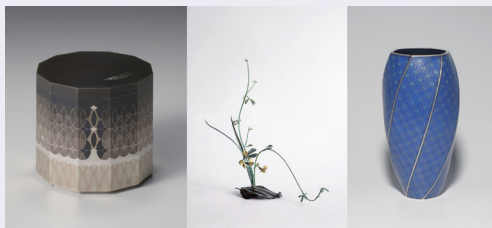
本館6階 美術工芸サロン【金工】

広島市立大学 金属造形の息吹

広島市立大学金属造形研究室の卒業生・修了生によるグループ展。2回目となる本展では、作家として歩み続ける中堅から、瑞々しい感性を持つ若手まで9名の作家の作品を一堂に展観。伝統工芸やオブジェなど、技法や表現は異なりながらも金属と真摯に向き合い、各々独自の造形世界を探究しており、「金属造形の現在」を伺い知ることができる貴重な展覧会。

【出品作家】

内堀豪(金属造形)、加藤貢介(鍛造・ダマスカス鋼)、原田武(金属造形)、平尾祐里菜(金属造形)、古川千夏(七宝)、丸山祐介(金属造形)、栗根誠一郎(七宝)、河田歩里(彫金)、八重山華蓮(七宝)



河田歩里(左)
平尾祐里菜(中)
栗根誠一郎(右)

11.4 WED~11.9 MON

白井 渚 陶展

本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

— まどろみ —

1991年栃木県生まれ、2022年金沢卯辰山工芸工房修了。代表作の「カタカナ」シリーズは、秘められた想いや名付けることのできない情緒など「語られなかったもの」の痕跡をコンセプトに制作。鑄込みによって制作した無数のカタカナパーツを捉えきれない感情の象徴として用い、モノの表面に貼り重ねることで、日常に沈む記憶や感情の蓄積を表現。

今展では「カタカナ」シリーズのオブジェを中心に、暮らしを彩るうつわ類も併せて展観。



「コレクション」
H35×W27.5×D12cm
磁土、色釉

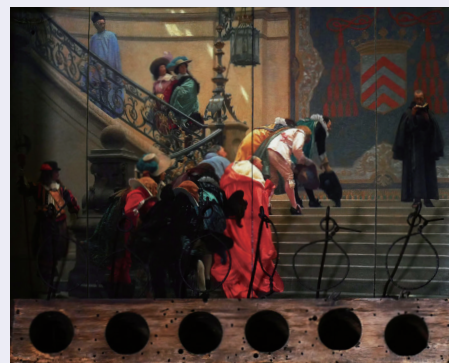
11.11 WED~11.16 MON

北川 健次 展

本館6階 美術画廊X【現代美術】

奇数247の感情を持つ M・Jeanne Marieの肖像

北川氏は1970年代に多摩美術大学で銅版画制作を始め、駒井哲郎氏の薫陶を得る。詩情性と哲学的解釈をとり入れたその濃密な作品世界は駒井哲郎氏を始め、棟方志功氏・池田満寿夫氏といった巨匠たちからも高く評価される。虚像と実像の狭間から「引用」という方法論により紡ぎだされる極めて独自の表現世界は「視覚化された詩」ともいえるべき深い詩情性をたたえ、観るものを耽美で官能的な幻視世界へと誘う。



10.28 WED~11.16 MON

灰原 愛 展

本館6階 美術画廊【彫刻】

空と花と人と

灰原愛氏は、木彫に彩色を施す独自の技法で知られる現代彫刻家。少女や少年を主題とし、柔らかな色彩と繊細な造形によって、やさしさや郷愁、生命の尊さを感じさせる世界を表現。作品には鳥や動物、植物などの自然モチーフがしばしば登場し、人間と自然が調和し共生する姿が象徴的に描かれる。また、可愛らしい外観の中に成長や希望、不安といった普遍的な感情を込めることで、見る人の心に静かな余韻を残す。伝統的な木彫技術と現代的な感性を融合させた新・近作を約20点発表。



「自然とともに」
H100×W94×D58cm
樟、檜、アクリル絵具、色鉛筆

11.11 WED~11.16 MON

伊藤 はるみ 日本画展

本館6階 美術画廊【日本画】

— 風のゆくえ —

四季折々の草花や自然の風景をモチーフに、気品と繊細さを兼ね備えた写実的かつ詩情豊かな画風で描く。花びら一枚一枚や葉脈の細部に至るまで丹念に描き込まれた作品は、生命の輝きと自然の美しさを鮮やかに映し出す。本展では、蕾に宿る期待、咲き誇る花の艶やかな妖気、散りゆく時の潔さ、そして実を結ぶ力強さ。花の周りを渡る風までも感じながら描かれた、ダイナミックかつ叙情的な作品の数々を一堂に展観。



「杜若」
F10号(軸装)

11.18 WED~11.23 MON

第五回
加藤 亮太郎 作陶展

本館6階 美術画廊【陶芸】

1974年岐阜県多治見市生まれ、京都市立芸術大学大学院を修了後、穴窯焼成による志野や瀬戸黒、織部を中心に、伝統を礎とした作品を制作。茶道や書道の心得を活かした「現代の桃山陶」ともいえるその作品は高く評価され、2024年には日本陶磁協会賞を受賞。

本展では、造形と釉薬が多彩な表情を見せる代表作の茶盃を中心に、花器や酒器などの新作を一堂に展観。

「織部茶盃」
H8.7×Φ12.1cm
陶器



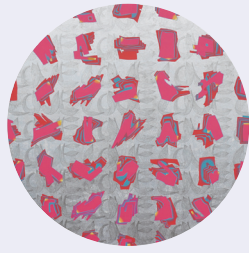
田中 武展「と」
— The Spectrum Between —

本館6階 美術画廊X【平面】

二つのもののあいだに置かれる、小さな言葉「と」。私たちは、世界をさまざまなものに分けて認識している。自分と他人、内と外、こちらとあちら。しかし、それらは本当に明確に分かれているのだろうか。本展では、「我」でも「汝」でもなく、「我」と「汝」のあいだにある「と」に目を向ける。色と色のあいだ。存在と存在のあいだ。そこには、明確な境界線ではなく、グラデーションのように移ろう領域がある。今展ではこの「と」に着眼した新作を一堂に展観。

11.18 WED~12.7 MON

「愛しき人の肖像(RGPY)」
直径72.7cm
麻紙、プラチナ箔、特殊フィルム、アクリル絵具



本館2階 アートアベニュー【陶芸】

生嶋 花展 — 息づくかたち —

1997年生まれ。武蔵野美術大学で木工を学び、多治見市陶磁器意匠研究所で陶芸技法を修得。現在、岐阜県多治見市を拠点に漂として瑞々しい白磁の作品を精力的に制作。彫刻的に削り出したパーツを原型とする「鑄込み技法」から生まれる、植物を思わせるしなやかな曲線と柔らかなフォルムが大きな魅力。手作業による繊細なレリーフが調和したうつわや造形作品は、日常空間に心地よい潤いをもたらしてくれる。本展では優美で軽やかな白磁作品を展観。

10.21 WED~12.14 MON

(左)急須「Luminous veil」
H16.5×W13×D11cm
(右)ふたもの「草萌」
H6×W10×D10cm
磁器、結晶釉、真珠ラスター



本館6階 美術工芸サロン【彫刻】

目は口ほどにものを言う
— 6人展 —

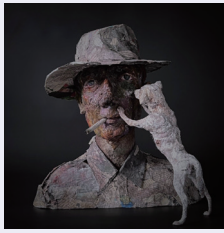
私たちは視覚から多くの情報を受け取り、それを思考や創作へとつなげている。作家たちが目で見te感じたものは、脳を通り、手によって作品として形になっていく。そして鑑賞する人もまた、目を通して感じ、共鳴し、新たな発見を得る。言葉では伝えきれない想いも、作品の眼差しは深く表現できる。六名の作家のそれぞれの想いを感じられる作品を展観。

【出品作家】(50音順・敬称略)

岡崎芳晴・日下正彦・
高宮ヨウコ・松田環・
三桝明子・森栄二

11.18 WED~11.23 MON

日下正彦「Trinity-01」
H41×W40×D40cm
新聞紙、アルミ芯材、自家製粘土、
石粉粘土、絵の具 他



本館6階 美術画廊【洋画】

福島 唯史 展

1967年東京都生まれ。1989年日本大学芸術学部美術学科卒業。現在は、立軌会同人としても活躍。50代最後の個展となる今展では「初心」や「原点」というものを少し意識しながら制作。大胆な色面を形として組み合わせた作品は、取材を重ねてきた風景やその記憶からインスピレーションを得たもの、ふと日常の身近なものがモチーフとなっている。抑制することなく、可能な限り自然体で描いた作品を約30点展観。

11.25 WED~11.30 MON

「モロッコのテーブル」
H116.7×W80.3cm
油彩、カンヴァス



藤田 新展
泉 — 古代からの伏流水

本館6階 美術画廊【平面】

1953年東京都生まれ。1979年東京藝術大学大学院彫刻科修了。平面と立体の境界を越えた作品を継続的に発表。今展では、富士山と羽衣を描いた「HAGOROMO」、鏡を組み込んだ「HANA」、そして新作の「MAGATAMA」シリーズを中心に展観。

11.25 WED~11.30 MON

「MAGATAMA」
H30×W30cm
レジン



鶴林 舞美 ガラス展

本館6階 美術工芸サロン【ガラス】

金沢卯辰山工芸工房修了。現在は石川県内のアトリエを拠点に制作。色ガラスの調合により生み出される美しい発色と、宙吹き・カット・手磨きなど、様々な技法を駆使したフォルムの織りなす豊かな表情が魅力。ガラスならではの色彩や透明感、輝きを追求した作品を一堂に展観。

※混雑の状況により、入場制限を実施いたします。

11.25 WED~11.30 MON

「光の彩」
H11×Φ9cm



		11月																														
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	
本館6階	美術画廊	長野 史子展		準備会場	那波多目 功一 展						準備会場	灰原 愛 展						準備会場	伊藤 はるみ 日本画展						準備会場	福島 唯史 展						
		小川 剛展																	加藤 亮太郎 作陶展							藤田 新 展						
	美術画廊X	北川 健次 展																準備会場	田中 武 展 ※12月7日(月)まで													
	2 本階館	美術工芸サロン	北浦 雄大 展		準備会場	万里一空Ⅱ						準備会場	白井 渚 陶展						準備会場	目は口ほどにものを言う						準備会場	鶴林 舞美 ガラス展					
アートアベニュー		生嶋 花 展 ※12月14日(月)まで																														

誠に勝手ながら都合により催内容、会期など一部変更または中止となる場合がございます。営業日・営業時間、催内容、会期の最新の情報は高島屋ホームページをご覧ください。



高島屋各店美術画廊・展覧会のご案内はホームページでもご覧いただけます。

高島屋 美術

検索

